

(一)

寧樂風烟古帝州春光何処  
不得愁夜來三笠山頭月曾  
入兆公天外眸

慶応四戊辰日録

明治卜改元

(二)

正月

二日 森田寺参り、多蔵

三日 去十二月廿九日出之配府今日着、披見文言ニ曰ク来年頭

御礼之義ハ些御模様有之ニ付御流ニ相成候、此段

御目見方へ通達可被致候、御役頭始村役中年始之

御礼之義ハ上下着用之義ハ決而不相成、平服之義ハ不苦候

此段相心得可被申候、為其如是申遣者也、十二月廿九日

ズ已上

十一日 三国木藤江米代銀取ニ多左衛門三国行ニ付頼遣ス

十二日 初御講御宿参り人与兵衛・甚右衛門・善六・政右衛門・九助・佐太夫

利太夫ズ七人宿共八軒

十四日 昼後、出福、村松へ行泊り、銀五匁トそはこ壱升五合遣ス

御上江銀五匁上ケ

十五日 朝御坊所へ参り米米へ寄銀五匁米善へ遣シ米善、出テ

鍋勘へ立寄村松へ帰り昼飯たへ夕方帰村

十四日 府中年頭多蔵出府当春は御上御礼御流ニ

相成家中斗り廻勤、三右衛門同道ニ而行、種屋ニ一泊宿料

現銀払

十五日 府中へ出福井大工藤五郎方ニ而多蔵泊ト申

十六日 昼時帰村多蔵

廿日 おゆう・またろ兩人休ニ来り、泊り

廿一日 朝おゆう・ま太郎帰宅致ス

二月一日 源太郎福井村松行同日帰村

三日 昼後清兵衛申越酒出シ晩そは切出ス

夕方晩ニ太郎丸村新十郎来り、酒出シ夕飯前致帰村

昼御代様随応寺御講宿当番昼四ツ時高江迄

御迎おきの、送り藤右衛門 講衆与助・与兵衛・儀兵衛・彦右衛門・和助

理右衛門ズ六人不時参り、藤右衛門

随応寺迄

- 六日 朝稲寄藤右衛門殿来り、菓子袋五匁斗持参  
直二引取ル
- 日 昼前お春来り、送り権七卜下女老人送り人、同日帰村  
お春帰り、送多左衛門・手伝おきの兩人行  
小嶋十三回忌志二付自分跡の小嶋へ行泊り
- 廿二日 朝御経後帰村、香具二拾匁お春の渡ス
- 廿七日 昼後出福、片岡へ立寄、夫の板垣へ行泊り  
片岡へ黒さと袋老ツ持参遣ス、代拾匁  
板垣へ黒さと袋老ツ代拾匁・かつほ老本代拾式匁五分の二品  
土産外二銀式拾匁板垣おぼ江、御参銭式匁子共江
- 廿八日 昼後板垣の福井へ出板垣の黒さと半斤斗もらひ  
大嶋へ行銀五匁之万寿札老枚遣ス、晩方村松へ行キ  
泊り
- 廿九日 昼□米善へ行、小林へ手本之礼二行、昼飯村松二而致し  
晩方帰村
- 三月朔日 波寄市郎右衛門・猪左衛門兩人おさと一件二初而来ル、同日引取ル
- 七日 昼の夕飯迄新助・藤右衛門・善六三人方江よはれ宿新助  
木田徳願寺も新助方二泊り法話
- 九日 波寄杉田隠居おさと一件二昼後見え酒出シ直二帰村致ス  
村松藤右衛門昼前来り、昼後帰福
- 十四日 菓子五匁斗り土産持参到来
- 十八日 出村永正寺并從僧老人の式人昼時前来り  
金米糖少持参昼後福井へ行キ
- 廿二日 昼嘉兵衛・千代藏式人そは切二而よひ候所嘉兵衛は  
来り、千代藏ハ不参贈り膳致し
- 廿日 出福、天井弥助へ行、お里買物致し天井二而昼弁当致し同日帰村  
三国木藤来り、昼支度いたし昼後帰湊
- (四)
- 廿三日 福井片岡江唐紙老件二多藏出福、昼後帰村
- 廿四日 笠右衛門屋敷の梅式本取来り植、但是は▼m01846▲卯兩年  
年貢引明方へ取来ル、清兵衛卜応対、喜兵衛・亀次郎こぐ  
門左衛門の梅老本もらひ手栽二植
- 同日 夜十助方江よはれ相客三右衛門・勘兵衛・喜三郎
- 廿六日 吉崎参り、自分・源太郎・おさと・供柳助の四人、外二善六方新も参り  
同所善四郎卜申所二泊り、自分・源太郎・おさと・柳助の四人、きちん八匁ツ、三拾式匁  
食物此方。悉く持参致ス、吉崎善四郎けんどん邪見之家二御さ候
- 廿七日 吉崎出立、浜坂へ出、善六近付之かゝの内へ立寄、自分・源太郎・さと  
三人造作二成申候、金津米屋吉兵衛二而酒呑同日晩帰村  
昼後三十五分麻まき、豆十歩二老升五合ツ、入
- 晦日

四月一日 昼前五十分麻まき  
同日 昼徳願寺御座、与兵衛方へ参り夕飯よばれ  
五日 晚将油豆三斗五升・小麦五升・米五升むし、喜兵衛  
六日 朝右豆・米・麦合せ被寝稗物〆四斗五升  
同日 右将油方江塩二表儀兵衛方ニ而需メ、三表代百五拾八匁、喜兵衛  
八日 昼前苗代〆昼後種入  
九日 出福、天井行、昼弁当たへ村松へ寄晚方帰村  
十三日 昼四ツ時〆大牧仁兵衛方江嘉兵衛祝儀結納持参  
因ニ記ス、嘉兵衛〆結納金十五両帯料・式百匁するめ  
式百匁かつほ・式百匁こんふ・式百匁たる〆五品  
次郎兵衛同道供喜兵衛夕方帰村  
十六日 嘉兵衛嫁取ニ付朝〆行、取持いたし部屋見廻式百匁致  
十七日 村女客ニ付おはる嫁連テ直り、かし物火はち四ツ・火箸四ぜん  
燭台式本・二枚折屏風・会席盆五枚・盃台一ツ・急須式ツ  
五徳壺ツ・障子式本・碗廿五人前・猪口十・ひつ六ツ・茶わん七ツ  
煎茶々碗小五ツ・同盆壺枚・茶□壺ツ・鍋三枚・三組蘭絵盆壺組  
重時絵四ツ・黒重四ツ・墨壺丁・小皿四十・かけあんどう式ツ  
櫃六ツ・銚子二ツ・屏風をさゝ竹五本

(五)

十九日 昼後波寄・川はた隠居来り、酒出そは切進メ、土産なし  
晚帰村致ス、同日夜糸崎家内よび  
廿日 昼時野中利兵衛来り、当年初而来り、泊り  
廿二日 朝飯後利兵衛帰村致ス、祭礼ニ付赤飯壺重送る  
廿五日 昼時野中五左衛門来り、昼飯たへ福井へ行き  
廿九日 三昧越わたまき昼後  
閏四月一日 昼前〆亀か漉わたまき  
野中五左衛門家内おまさ・多助・さと昼時来り  
二日 野中おひろ并おはる同道出福、晚方帰村  
三日 昼過おひろ并おまさ下男下女共〆四人帰り  
五日六日 両日南大平屋根ふき  
六日 村松藤右衛門・鷺塚嘉右衛門兩人来り、昼寝後帰る  
同日 新保おふみ小鶴屋〆おさと貫度旨申来り  
直ニ帰り  
八日 昼前波寄川はた行、昼後杉田仙十郎江立寄夕方帰村  
十三日 朝出福、井原へ行昼飯いたし同所江黒豆壺升持参  
同所〆かけ物式ふくかり天井へ寄夫〆帰村  
十五日 戻り、さかな屋清三郎江寄酒式合、鯛サシミ少々・いり身少々〆二品ニ而吞、払不為  
いわし式百七十五こぬか漬ニ致ス、一ツ四分五厘ツ、塩半表儀兵衛〆  
需メ半表式拾八匁

十七日 井原悠廉隠居・天王町三浦松左衛門兩人来り、庭

梅もとき并モクコク新四郎方。もらひ梅の株壺本

ノ二本同人差凶ニ而植右兩人晩方帰福

廿五日

井原隠居。禅智書扇子壺本・細書筆一本二品土産ニもらひ

出福、井原行ねりようかん壺本代三拾式匁箱入隠居へ持参

同所ニ而昼飯たべ禅ちかけ物壺ふく并備画一ふく借用致

禅ちは銀貳百匁ニ而求る約定、茶少々、唐画まくり壺枚もらひ

(六)

廿五日

晩牧安へ行、泊り夕飯。

廿六日

昼時前牧安ニ而酒呑、鯛のさし身少々斗ニ而一提子呑

昼飯後牧安を出米善へ立寄晩方帰村

五月十一日

丸岡おこの。およき江使到来、品物わらひ・青梅・

煎餅ノ三品もらひ、此方。豆貳升遣ス、御引五匁

同十四日

多藏三国加藤へ行、同日晩帰村

同廿三日

野中小嶋江同人招使手紙持参、おきの行昼後帰村

同廿八日

晩方野中利兵衛来り泊ル、素麵二玉持来り

同廿九日

昼後利兵衛帰宅致ス、此方。だこ二十五・鯛壺枚

焼さば二ツ・扇子壺本同人帰之節遣ス

同晦日

野中内願一件ニ付出福、井原へ着、供もと連行キ

井原隠居へ頼、添書相願持参、小道具町西尾

井原ニ而□後中飯致ス

一松ト共隠居へ行、此人は出潤伝之丞ト申人之兄ニ

御さ候、右人江添書出シ相願込候、ねりようかん五拾匁持

参致候得共不受、夫。引取牧安へ行、夕飯。泊り

六月朔日

朝飯前辻へ行候所不面会、夫。毛屋本多武太夫様へ行候

所此人不快ニ而不能面会ニ、牧安へ帰り昼飯前又

辻へ行面会、右之野中一件咄込候所外人参り候ニ付

引取り嶋崎へ行、夫。米屋儀介方へ行、休息致シ

又辻へ行候所留主ニ成面会ニ不能、辻家内へ委曲

咄置ようかん一・かつほふし式本差出シ留主中之

家内へ進シ帰り、牧安ニ而中飯、夫。村松へ行泊り

二日

朝飯過村松を出牧安へ行夫。米善へそうめん二

持参、此所ニ而中飯致し帰村

(七)

三日

大嶋返シ手本式冊牧安へ預ケ大嶋へ返具候様頼込

帰村

四日

野中利兵衛来り、昼寝後帰村

八日

出表、二番麦貳升三合庄や嘉右衛門へ、使もと

七日 府中暑気見舞多蔵出府、種屋ニ泊り、宿料  
酒共四拾八匁多蔵現銀払、藤田文内殿を指彼方へ  
行指図を受廻り候様申付遣し候処、秋月江参り候様  
多蔵へ藤田申候ニ付秋月江行書付もらひ廻り候様  
多蔵申之別紙秋月もらひ申候書付有之

八日 七ツ時帰村

八日 昼前喜兵衛三国へ素めん・にしん買二行、昼後帰村  
廿一日 早天野中小嶋へ行、但野中小嶋大庄屋役蒙り祝ニ付酒二よひ度  
旨申ニ付自分行泊り、祝五拾匁持参

廿二日 晚方野中へ帰村、留主中福井茶次郎へ三幅対かけ物  
来り

廿三日 使源太郎を以茶次郎江かけ物返却

廿五日 長浜屋へ茶買亀次郎出福、昼後帰村

昼後高江村三右衛門へ丸岡皇太子様御出ニ付昼後参り  
平右衛門へ寄馳走ニ成夕方喜兵衛迎え見え帰村  
銀五匁太子様江上ケ

廿七日 来ル朔日朝六ツ時御前御出陣被成候条御目見百姓并  
村々庄屋老人ツ、勝手次第御目立ニ罷出候様被仰出  
罷出候者は上下着用ニ而北府端へ可被罷出候、為其

晦日 如是申遣候者也、六月廿五日三好惣左衛門・石本与喜右衛門  
早天出府種屋へ着、議政所江罷出候処、御前御立

二日ニ相成候様被申付

二日 種屋ニ滞留致シ広瀬光徳寺へ行、菓子拾匁持参  
同所ニ而中飯たべ夫へ池上村善光寺様参り帰り

(八)

馬 七拾三匁六分

家 三拾八匁五分

(九)

此時種屋 高瀬善兵衛へ立寄府中へ帰り、金式両御前御立  
御餞別として御代官所ニ而本多庄兵衛殿へ相渡ス

但シ金老両ハ四百三拾五匁指中弥兵衛へ府中種屋ニ而  
買取り老両ハ四百三拾三匁ニ而柳ニ而買取り

二日 早朝北府端題目塚前ニ而御目見御見送り

夫へ府中出立、昼時過福井茶屋次郎兵衛へ着

同所ニ泊り

昼後帰村

八日 村盆森多蔵行、庄や嘉右衛門

十二日 朝九助月并御講自分参り、山室吉兵衛来り

利兵衛算用、酒出昼時前山吉帰村  
十一日 昼前丁田くろそはまき、昼後三味越そはまき  
十二日 昼後田嶋桶屋隣そば同屋敷も少々同時二まき  
同日 多蔵三國。野中行夕帰村、源太郎昼前村松へ銀持行昼後帰り、  
出福、佐太郎同道供善六、御坊所へ参り両親永代経一座読経  
廿日 二もらひ御布施百匁、但五拾匁ツ、外二拾匁盆参り御坊所江上  
御坊所二而主従三人共中飯たべ井原へ行、本多へ御留主見廻  
□但喜十郎江相渡ス、夕方三人共帰村  
廿八日 朝高柳村西岸寺へ行、夫。野中へ出小嶋二而昼飯いたし  
夕方帰村  
八月二日 夕方野中小嶋福井。帰り来り泊り  
三日 昼後帰村引取り  
十三日 三國加藤法事二付出湊、加藤へ着、香料三拾匁  
茄子六十・ねぎ七かぶ・持行、御経済御斎後木藤へ行  
但フクラゲサ身一疋・クジイリ身一疋二品、外二そば  
夫。出村へ行酒呑夫。坪吉へ来り休ミ、朝木藤へ参り  
朝飯たべ嶋加藤へ帰り昼飯たべ夫。高柳西岸  
寺へ来り、手本取札百匁致ス、直二帰村

(十)

八月十五日 昼後鷺塚嘉右衛門。態々迎人来り候二付  
同道祭礼二行、夕方帰村、但、三國大学書額地一枚  
高柳栗園書額地壹枚・出村永修寺書蘭一枚  
嘉右衛門へ遣ス、同人。鶴羽壹本もらひ  
十八日 源太郎出福買物二行、昼後帰村  
十九日 昼前小嶋利兵衛来り、昼後帰村  
廿二日 野中豊太郎養子歛二多蔵行、豊太郎江錢別百匁遣ス  
其餘鷺塚庄左衛門方へ行分野中江任セ帰り申候  
多蔵晩方帰村  
九月三日 小嶋豊太郎鷺塚。里帰り二付野中へ行キ  
但、鷺塚。舅入二付取持致ス、野中へ何も土産不持  
取あつかひ不為、其日小嶋二泊り  
四日 小嶋二逗留、夜分三國へ遊二行、坪吉二而呑、夫。  
出村有ひさやへ行酒呑、鶏鳴比野中へ帰り  
但、利兵衛・教法寺・今市いしや同道、払不為此払方へ  
利兵衛へ銀貳百五拾匁渡し坪吉二而貳拾匁花出ス、有ひさや  
二而五匁下女へ、百七拾五匁出ス  
朝飯後帰村  
五日 昼後三國木藤。あら井や吉兵衛兩人見へ泊り  
十日 昼前同人共帰湊致ス、吉兵衛。ようかん拾匁斗もらひ  
十一日

同日 昼後三国上田勘蔵来り泊り、土産氷さと一箱もらひ

同日 昼後三国上田来り泊り、氷さと壺箱もらひ

十二日 毛見泊り、和田敬之助・藤田文内・手代平沢五一郎  
家来式人主従五人泊り、東迄迎多蔵行

十三日 西へ送り多蔵行、村役判頭、前日後日共酒なし

(十一)

十三日 毛見帰り後、村役相役嘉右衛門・庄屋平兵衛・相役和助三人酒呑

同日 昼後上田同道出福、米善へ行泊り 米善へ

東林寺茶壺袋、但半斤持行

同日 朝井原へ行、黒さと式拾刃持行、昼飯後米善へ

来り、酒呑、直二帰村

十八日 野中へお春迎、善六差越候処おまさ不快二付不来

但はちや柿三十五・次郎柿十三被持遣申候処、先方。身欠壺束  
到来

十月二日 波寄市郎右衛門方へ贈り申候紙面写 使善六悴、新

寸楮拝啓、朝夕は余程寒冷相催申候所、貴境御揃愈

御多祥御起居御さ候条奉寿候、陳は先達而者貴公様。

御懇情ニ被仰下候猪左衛門様御縁談之一件二付、退而能々

相考候所、余り愚暗之生質ニ御さ候間、御先方様へ差上

候とも、御間ニ合候人物らしき者ニ而無御さ、御間ニ逢

不申候時は自然不縁之基とも相成可申

是迄之御間柄相損ひ申候様ニ而者、却而不宜候

間、何卒此所御承知被成下、御先方様へも不悪

御承引被成下候様乍憚貴公様。御伝達奉願候

毎々御厚情ニ被仰下、千万辱寔背本意候へ共

右之訳柄ニ御さ候間、宜御承服被下度候、先は

心緒為可得貴意、尚書外拝容万々可申伸

如此ニ御座候 草々不悉

初冬二日

加藤理右衛門

杉田市郎右衛門様

机前

(十二)

同六日 福井祝町本や惣兵衛・もめんや与三右衛門縁談一件ニ  
来り、同日帰福

同七日 むら松藤右衛門銀子返済ニ来り、同日帰福

同八日 出福、井原行、中飯馳走ニ成、夫。天井へ寄、米善江立寄

夕方遅ニ帰村

同十六日 源太郎三國木藤行、感状記廿冊返却  
昼後歸村

同十八日 石橋吉兵衛女昼前來り、柿廿五、柑子壺袋持來り  
泊り

同十九日 朝石橋女歸り

同 福井松本木綿や与三右衛門・豆腐や卯之助・本や惣兵衛  
家來老人々四人來り、酒式升樽壺ツ、但銘大江山

土産ニ到來、昼飯并酒出シ晩方歸福致ス

廿二日 大根引

廿三日 大根洗一六百五十本 澤庵一百五十本 葉付一千五十本 山二ツ

一四百五十本 大ぐき桶式本一五十本 干大根

塩百ニ式升ツ、塩壺表百匁ツ、ニ而高江伝左衛門。求メ

廿五日 府中講滿会ニ付、山二右衛門方へ行、夕方米善へ歸り、同所ニ而夕飯  
致し泊り

廿六日 朝飯後井原へ行、留主不逢、夫。村松へ行き、昼飯いたし

同所江朱手并ニ九谷二品礼、金百疋致し、夫。村松を出

本惣へ行、同所ニ而酒馳走ニ成、夕飯いたし、米善へ歸り

泊り

廿七日 米善。朝飯後井原へ行、又留主ニ而不逢、米善へ歸り

同所ニ而昼飯致し、晩方歸村

晦日 波寄次郎兵衛・猪左衛門方縁談一件來り、直ニ歸村

霜月五日 おゆう・またろ泊ニ來り

六日 朝おゆう・またろ歸り、牡丹餅壺重嘉兵衛方へ遣ス

(十三)

霜月九日 味噌煮 豆六斗 豆二七割塩

糶五割金剛寺弥三次。

但卯年古豆

此塩高江伝左衛門。取ル

此糶米バカリ壺升式拾式匁ツ、

壺表百匁ツ、

糶三斗

塩四表求メ

同十日 山室吉兵衛。手紙來り候ニ付、三國御藏入米一件ニ付三國へ行キ

中町新長ニ泊り、但三國。江上甚兵衛手紙持參ニ而迎ニ來り、同道ニ而行

同十二日 米御藏納メ廿五表内九表はね米出十六表納り、はね米ハ

壺表壺貫九拾匁ツ、ニ而、黒丸の者江御藏ニ而うりはらひ

同日晩 木藤へ行、夕飯致し泊り、夜坪吉へ行

十二日 昼前吉甚并ニ東臯方へ行、木藤へ歸り中飯、昼後出村道具屋へ

行、木藤同道ニ而木藤へ歸り、新長迄來り、晩方歸村

十三日 昼後御所垣内与左衛門・砂子坂村上くらやト申者、中山村錦織より

おさともらひ度由申來り、酒出し、極月十日比迄ニ御所垣内迄

此方より返答可致旨申歸し申候

配府到來、來十八日御前御歸陣被遊候条

御目見百姓并庄屋老人ツ、勝手次第罷出候様  
被仰出候、若罷出候者は先達而御出陣之通  
上下着用ニ而北府野間江可被罷出候、為此  
如斯申遣者也 十一月十四日 平沢五二郎

石本与喜右衛門 二ツ印

下領村々 御目見百姓名前なし

十五日 おさと一件二付、朝宮門左衛門取しらべニ喜兵衛遣、晚帰村  
十六日 同断一件二付、中山村西こり三郎左衛門取しらへ、喜兵衛遣ス  
晚方帰村

十八日 昼後、御所垣内村与左衛門方江縁談一件断ニ喜兵衛遣ス  
十九日 府中御上恐悦ニ多蔵遣ス、但三右衛門同道ニ而

十八日 森田秋廻り寺新發意・内役僧式人、宿与兵衛・甚右衛門  
兩人ニ而致ス

十九日 朝同僧御勤ニ来り、銀拾匁ツ、兩人へ差上ケ

(十四)

廿一日 昼時分多蔵府中行帰村、但十九日種屋ニ泊り、一代■拾九匁現銀  
拾、廿日夜牧安ニ泊り是も多蔵。現銀はらひ牧安宿料  
五拾匁

廿五日 出福、牧安へ行上り、夫。村松へ行、牧安へ帰り泊り

廿六日 御坊所参詣、牧安へ帰り泊り

廿七日 昼後牧安。帰村、此時牧安宿料現銀ニはらひ

極月二日 出福、牧安へ泊り、拝借新四郎・勇太夫。被頼候ニ付野中

小嶋江面会ニ而頼度茶惣四ツ井屋へ尋四ツ井屋ニ而小嶋面会

三日朝 小嶋義牧安へ来り、右一件頼候所銀拾五貫匁

心配致候様小嶋申居候、此時牧安現銀はらひ相済

同日 留主中小嶋利兵衛来居自分帰村ニ而面会

四日 利兵衛出福、用向兼帯喜兵衛福井迄同道

七日 暮森庄屋平兵衛方へ行

十一日 夜そば切与兵衛よはれ行、小鯉節老本持参

(十五)

辰暮森割

四拾匁四分 家掛り

百六匁老分 高拾石分

(十六)

極月廿三日 もち白米納五斗漬

同日 昼後朝宮門左衛門牧安兩人来り泊り、朝宮。塩いわし

五十・籠菓子老袋代拾五匁斗二品もらひ

牧安のねりようかん拾五匁到来

廿四日 朝飯後兩人引取り

二月十日 田中専妙寺子息并小僧二人泊り、同日夜法話

十一日 朝御座なし、但風邪ニ付安沢迄引取ル、送り喜兵衛 布施不為

同十二日 木田徳願寺泊り、御法話、沈香壺袋もらひ

同十三日 昼後帰福、布施なし、忒拾匁斗之ようかん壺本遣ス

同十八日 轟村浄光寺・中善行寺来り泊り御法話

十九日 朝太郎丸村おたい当春廿五年ニ相成候ニ付同僧ニ

御経もらひ布施三拾匁致し申候、土産ニセめんしな  
壺袋もらひ外ニ礼なし

三月晦日 広瀬光徳寺様泊り御法話、迎高屋迄

喜兵衛翌日送り、天菅生迄高屋惣左衛門送り行

浅草苔十枚もらひ銀拾匁菓子料上

□月廿四日 番田村善正寺泊り、法話高屋迄喜平迎ニ行

布施三拾匁并二画短冊一・白山賢正院短冊一・自分短冊壺

進シ廿五日天菅生源七の迎ニ来り、其方□移ル

(十七)

□月廿一日 湯尾浄源寺泊り、法話菓子料拾五匁遣ス

翌日 下市へ移り送り、善六方新造、但沈香壺袋もらひ